

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里 綾ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和2年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの願いや希望を一つでも多く叶え、実現でき、まゆの里を我が家として感じる事で、自分らしくできる事やわかる事を活かし役割をもって生活していただけるように、職員も寄り添い、助け合いながら共に暮らす喜びの実現を目指しています。ミーティングや勉強会を通して認知症ケアについて学んでいます。また学びを活かし質の高いケアに繋がるよう情報の共有にも力をいれています。ご家族との家族会では、認知症の人をもつ家族として日頃聞かれない話もきかれいい機会ができたと考えています。また、地域との交流としては足湯カフェを開催し入居者とのふれあいの場となりました。日々のあたりまえの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

養蚕産業の盛んな地域であったことから命名された「グループホームまゆの里」は、玄関を中心にまゆにかかわる”絹”と”綾”のユニットが配置されている。配属されて日の浅い新管理者は、法人での経験を活かし新たな気持ちで、入居者・家族の思いに添い、職員の資格や特技などを支援に活かしながら邁進している。エプロンを付けて食事作りに精を出される入居者や各々の帽子やタオルを被り玄関先に集合して、花の苗植えをされる入居者の表情は生き生きとしており、面会に訪れた家族もその光景に安堵されているようであった。また、苗植えの作業の後の足湯を予想し、前もって湯を張っておくなどの配慮も見られた。今後もまゆの里の生活が入居者にとって最良の時間となっていくことが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に奇数日「基本理念」偶数日「4つの目標」を唱和を行い確認し実践に繋げている。	職員は基本理念と4つの目標を名刺に入れて携帯し、朝礼時に読み合せて1日のスタートを切っている。理念は新たな職員や家族に紹介してホームの基本姿勢を示し、ミーティングで日々のケアを振り返りながら自己評価の機会としている。	理念と目標はホームのパンフレットに記載されており、広く地域へも啓発している。年度初回の運営推進会議でも、参加者に向け紹介されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の小規模多機能ホームと共同で、地域の敬老会等に参加出来ている。地域の方を招き入れる活動として、ふれあい会や法人主催の夏祭りに参加してもらっている。	地域の敬老会行事に参加し、年2回開催する「ふれあい会」には、地域や子ども会に声掛けしながら、餅つきなどの季節行事を多機能事業所と合同で企画し、喜ばれている。回覧板を活用して法人主催の夏祭りを発信したり、認知症啓発活動「らん伴」の実行委員として職員が参加するなど地域交流の機会が持たれている。入居者は様々な行事を通して、地域社会と繋がり生活している。	職員が認知症サポーター養成講座の講師として地域の小学校で出前講座を開くなど、地域貢献を果たしており、継続した取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを、月1回開催して地域の方との情報交換の場を持っている。今年度は、職員がRUN伴のランナーや実行委員として参加し活動出来た。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や、ホームでの様子を報告。ヒヤリハットや事故についても報告し意見を頂いている。まゆ里通信を作成して説明も行っている。	会議は地域交流センターやホームのリビングを会場として包括職員や地域の代表者の他、家族や入居者が参加している。スライドを使った行事紹介や研修、事故報告等が行われている。身体拘束適正化委員会での内容も会議の中で報告し、ホームの基本方針を伝えている。参加者から事故報告についての質問や、人材確保への取組、虐待について他事業所での実例をもとに出された質問に包括職員が応えるなど、双方向の会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポーター養成講座へ、講師を派遣行い協力をおこなっている。	運営推進会議に行政担当者が参加し、ホームの現状を発信して行政の意見や情報を運営に反映させている。管理者は事故報告等の書類提出や相談事で行政や地域包括と連携し、運営の透明性を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会で、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。	身体拘束の指針に則り、法人全体で拘束を行わないケアの実践に向け年4回の適正化委員会を開催している。入浴や就寝時のボディチェックで気になる点があれば、事故として報告にあげ検討している。スピーチロックについて管理者は、気になる言葉が聞かれるとして課題としている。	法人全体の会議と並行し、ホーム単独での会議には、全ての職員が参加する機会を作り、特にスピーチロックについては、入居者の行動を制止したり、威圧的な表現になっていないかなど今一度話し合いの場が必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用中である。法人内でも、権利擁護について研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。介護報酬改定等で、利用料金が増える場合はその都度説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議に、利用者並びに家族に参加してもらい意見を頂いている。	家族の面会時には入居者の近況を伝えながら、意見や要望を引き出し、併せて運営推進会議への参加を打診している。昨年再開した家族会は、地域のグラウンドへ花見を兼ねて出掛け、その後交流センターで入居者の日々の様子をスクリーンで紹介している。入居者の意見は普段の会話の中から聞き取り、デパートに行きたいとの要望に、近くの大型商業施設での食事が実現している。	職員間の伝達の不備について出された意見を真摯に受け止め、家族の納得が得られるよう話し合いがおこなわれている。今後も出された意見については、スピーディな対応が求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや朝の申し送り時を活かし、職員の意見や提案を聞くようにしている。	朝礼の申し送りで夜間帯の入居者の状態などを共有し、職員は気づきや要望などを提案している。夜間帯の“ねむリスクャン”の導入は、法人本体で管理し、夜間覚醒された時間にトイレ誘導を行う事で、睡眠不足による弊害に対応している。外部研修への参加や資格取得への後押しなど、働きやすい職場環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加など、やりがいをもち向上心高める機会を作っている。人事考課制度を採り入れ、面談等を行い助言などを行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で、研修会を行っている。自主参加を希望する職員に対しては、参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、RUN伴に参加し他施設や同業者との交流も図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対している。安心して生活ができるような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考え対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は近況報告をし、変化あればすぐに電話連絡している。ホームでの行事や、ご本人の誕生日など参加していただき、またボランティアとして参加して頂くこともある。病院受診は、できる限りご家族に依頼し、本人との関係が絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や床屋で散髪してもらったり、地域の敬老会に参加したりしている。馴染みの店やレストランに家族や職員が付添い出かけている。	入居者の中には行きつけの美容室に自ら電話され、送迎の協力を得て外出される方もおられる。地域の敬老会に参加し馴染みの人との会話や、昔の教え子や近隣の方の面会で再会を果たしたり、初詣やどんどや等、入居者には懐かしい行事に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら職員がどこに座るか検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。退居先に面会に行ったりして、ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。	職員は普段の入居者とのかわりから思いを引き出し、臥床が中心になられたり、表現困難な方へは、ホームでの生活の様子や、家族からの情報をもとに本人本位となるよう検討している。また、担当職員を中心に情報を共有し、支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話を聞くようにしている。入居後も、面会時や行事時などで、会話の中で家族と情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合った意見を活用しながら、本人、家族の意向をふまえた介護計画を作成している。	入居者を職員の担当制としている。ケア会議で担当職員の声を反映しながら、本人・家族の意向を優先してプランを立案している。入居間もない方へはまずは、ホームに慣れてもらい本人の1日のペースを作れるように、他者や職員との関係性を考慮している。職員は繰り返しの言葉にも耳を傾け、本人の過ごしやすい環境をプランに盛り込んでいる。	離床センサーについては、使用目的や期間を明記してプランに入れ、家族の承認が必要と思われる。今後もプランの作成にあたっては、家族などへの説明や話し合いの機会を充分もたれた後に、承認を得られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。受診の対応や個人的な外出への付添い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの、美容室やスーパーに出かけたり、入居者の仲のいい親戚や知人を把握し交流が図れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。できる限り家族対応にて付き添ってもらい、必要に応じて職員が同行している。その時の症状に応じて専門医の受診も行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援することとしており、受診や往診がおこなわれている。専門医をはじめ、受診に出る際は、家族の対応を依頼し、必要に応じて職員も同行している。日頃の健康状態や受診結果は家族と共有を図っており、適切な医療支援が速やかにおこなえるようにしている。歯科については往診にて治療や口腔ケアがおこなわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡を取り、情報交換や今後について相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。また、身寄りがない方については、後見人やかかりつけ医と話し合い、事前指定書を作成した。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。	入居時に重度化・看取りに関するホームの指針をもとに説明をおこなっている。ホームでの最終を望まれる場合は、状態に応じてあたためて意向や今後の方向性などを家族と話しあう機会を持っている。現在、特養施設への転院を希望されている方もおられる。法人で開催される終末期支援に関する研修会に参加し、心構えなども学んでいる。	台所で調理の手伝いをされる方や、庭先での花植えなど入居者の笑顔の表情は、職員にとっても励みになっていると思われる。今後も日々のかかわりを大切にケアの継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で毎年1回、心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。	この一年間で夜間想定と昼想定(出火場所をギリギリまで告知しない)の避難訓練を実施している。備蓄については法人に3日分確保している。法人内事業所との連携や消防署との協力体制に加え、今後は近隣地域との連携を課題にあげている。	火災は火を出さないことが一番であり、今後もコンセントの埃なども含め、安全チェックの徹底が期待される。また、昨今の自然災害は予測をはるかに超えるものであり、引き続き机上を含め有事への対応に取り組まれることを期待したい。また、災害備蓄については、ホーム内にもリストを備えておくことも必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。	呼称は苗字にさん付けを基本としているが、反応に応じた呼び方でも対応している。入居者への尊厳やプライバシーに配慮した支援については、法人顧問による指導や周知を図る機会を持っている。写真掲載など個人情報使用については、本人・家族の了承を得ている。入居者が誕生日を迎えることは、家族にとっても嬉しいことであり、誕生会はその日にその方にあった希望の祝会(好物を食べるための外食など)を行っている。	居室へ入る際は、その方の部屋として在室の有無にかかわらず、ノックの徹底が必要と思われる。また、言葉かけが職員優先になっていないか、不適切ではないかなど、今後も振り返る機会や事例を通じた研修などの取組に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、一つひとつ、例えばおやつ時お茶にするかコーヒーにするかなど、私たちが判断し提供するのではなく、入居者が自分で決定できるような声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらっている女性は、自分の化粧品でお化粧をしている。また、外出や行事があるときは、おしゃれを着てもらい、スカーフやアクセサリ、帽子などを身につけて出かけている。行事時に、背広を着る男性利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている	専任者を中心に献立作成と、昼・夜の調理がおこなわれており、時には湯煎の料理も活用されている。献立は季節や好みなどを反映して、のど越しをよくするためにも3食汁物を付けている。入居者の中には味や主食の量など職員に伝える方もおられるようである。食材は鮮度にこだわり、味噌や醤油は地域商店から届けられている。ソーメン流しをはじめとしたイベント食にも工夫を凝らしている。入居者がエプロンを付けて、野菜の下ごしらえや巻きずし作りなどに精を出される光景が見られた。	入居者が調理に関わる際、現在はホームのエプロンを着用されている。今後は家族に協力を依頼し、本人のエプロンを準備することでさらに腕を発揮されるものと思われる。取組に期待したい。また、食事中に発せられた入居者の一言などを記録に残し、今後の料理や会話のきっかけにつなげていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日把握して。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。変化あった時は、モニタリングを行い再度検討している。	個々の排泄パターンを把握し、状況に応じた排泄用品を検討している。現在はリハビリパンツを使用される方もおられるが、布パンツで過ごされる方(パット併用もあり)が多いようである。1名ポータブルトイレを使用される方がおられるが、使用ごとと、週1回は必ず本体ごと洗浄をおこない、清潔に管理することで、気持ちの良く使えたり臭気など残らないようにしている。排泄用品を家族が準備される場合は、サイズや性能などのアドバイスを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたいときにはいれるように、希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人ひとりのADLに合わせ、リフト浴や檜浴なのかを使い分けるようにしている。ウッドデッキには、足湯があり楽しんでもらっている。	入浴は基本的に週3回入ってもらえるよう努め、発熱時などは清拭で対応している。2か所の浴室はリフト浴と、浴槽と腰掛もヒノキで作られた一般浴が備わっており、身体状況に応じて使用されている。また、双方の浴槽はスライドするため、個々の入りやすい位置で設定している。脱衣場や浴室は清潔に管理し、気持ちの良い入浴につなげている。また、ウッドデッキには足湯が備わっており、ホームの特徴の一つとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日付け替え、台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っていただいている。また、散歩、買い物など楽しみを持っていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日にその人が行きたい場所や、昔、なじみだった居酒屋などに出かけている。また、近隣のショッピングモールでの買い物にも、出かけている。月に1回はユニット毎に外出行事を行っている。	菊人形やコスモス見物、初詣など季節に応じた月の外出を計画している。この春には花見も予定されており、開花情報を入居者や職員も楽しみにされている。入居者全員での外出は困難な状況になっており、誕生祝を兼ね馴染みにしていた店や行きたい場所などへの外出、近隣の散歩など個別支援に努めている。温泉施設への宿泊や1週間の正月の帰省など、家族との楽しいひと時を過ごされた方もおられる。	訪問当日に園芸管理を得意とする職員により、玄関先で帽子やタオルをかぶり季節の花苗を植えられる入居者の表情はにこやかであった。今後は水やりなど戸外に出る機会として支援いただきたい。また、玄関先のポストへの投函の確認を日課とされる方もおられ、今後は家族などから手紙やハガキが届けばより楽しみになると思われる。家族の協力により実現されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元を持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していただいたり、手紙を郵送したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。	玄関から左右に配置されたユニットは、季節の飾り物や掲示物など、双方の職員が工夫を凝らしながら、居心地の良い空間を作っている。また、地中熱システムの導入や空気清浄機などにより、快適な生活を支援している。団上りの畳の間は洗濯物たたみなどにも活用され、訪問当日は雛飾りが置かれ、季節を感じる事ができた。リビングは神棚が置かれており、入居者の中には手を合わせられる方もおられ、職員はいつもきれいな褥を上げるよう心掛けている。	玄関入り口に設けられた花壇に季節の花苗を植えたり、正月の門松作りなどを手伝われた入居者もおられたようである。今後も入居者の特技や趣味など出番を生かしながら、環境整備を行うことで家族にとっても楽しみな来訪につながると思われる。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスや仏壇などを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。	本人にとって安心して過ごせる居室となるよう、入居時に持ち込みの例をあげながら説明を行っている。フローリングや畳に障子が備わった部屋など趣の異なった居室には、テレビや日記を書くための机、観葉植物、ぬいぐるみなどこれまでの生活が継続できるものや、家族の写真や遺影など心の拠り所となるものが協力により持ち込まれている。衣替えはホームが中心に行っているが、損傷などの確認もかねて家族にも協力を依頼している。	寝具などは天候の良い日は努めて日光干しをおこない、衛生面や安眠を支援している。このような光景も写真などを通し、家族へ伝えることで安心につながると思われる。取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391000108		
法人名	医療法人 孔子会		
事業所名	グループホームまゆの里 絹ユニット		
所在地	熊本県菊池市泗水町福本780番地		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの願いや希望を一つでも多く叶え、実現でき、まゆの里を我が家として感じる事で、自分らしくできる事やわかる事を活かし役割をもって生活していただけるように、職員も寄り添い、助け合いながら共に暮らす喜びの実現を目指しています。ミーティングや勉強会を通して認知症ケアについて学んでいます。また学びを活かし質の高いケアに繋がるよう情報の共有にも力をいれています。ご家族との家族会では、認知症の人をもつ家族として日頃聞かれない話もきかれいい機会ができたと考えています。また、地域との交流としては足湯カフェを開催し入居者とのふれあいの場となりました。日々のあたりの暮らしを大切に、尊重されていると実感していただけるようなケアを実現していきたいと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に奇数日「基本理念」偶数日「4つの目標」を唱和を行い確認し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設の小規模多機能ホームと共同で、地域の敬老会等に参加出来ている。地域の方を招き入れる活動として、ふれあい会や法人主催の夏祭りに参加してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを、月1回開催して地域の方との情報交換の場を持っている。今年度は、職員がRUN伴のランナーや実行委員として参加し活動出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や、ホームでの様子を報告。ヒヤリハットや事故についても報告し意見を頂いている。まゆ里通信を作成して説明も行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に出席頂き意見を頂いている。認知症サポータ養成講座へ、講師派遣を行い協力をおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の勉強会で、身体拘束について勉強会を毎年行っている。身体拘束は行っていない。法人の身体拘束適正化検討員会を3ヶ月1回開催、参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で、高齢者虐待防止について学んでいる。日頃のケアに統一に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも、権利擁護について研修会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書や重要事項説明書の内容について説明し、不明点がないか確認を行っている。介護報酬改定等で、利用料金が増える場合はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。運営推進会議に、利用者並びに家族に参加してもらい意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや朝の申し送り時を活かし、職員の意見や提案を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修への参加など、やりがいをもち向上心を高める機会を作っている。 人事考課制度を採り入れ、面談等を行い助言などを行いやる気に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内で、研修会を行っている。自主参加を希望する職員に対しては、参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加したり、RUN伴に参加し他施設や同業者との交流も図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書を読んだうえで、ご本人の行動、訴えを聞き対している。安心して生活ができるような関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族との面談を行い、困っている事や不安な事、これまでの経緯や思いをしっかりと聞き、今後の信頼関係が築けるようにしている。また、いつでも気軽に相談してもらえるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思い、要望を聞き、現状が当ホームの利用に適切であるのかを考慮対応している。必要に応じて、居宅のケアマネージャ等と連携し、他のサービスが適切な場合はサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある、「共に生き、共に暮らしをつむいでいきます」が実現できるように、暮らしの中で入居者、職員が共に助け合い、できる事はして頂き、料理や掃除など職員も教わりながら日々の暮らしを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は近況報告をし、変化あればすぐに電話連絡している。ホームでの行事や、ご本人の誕生日など参加していただき、またボランティアとして参加して頂くこともある。病院受診は、できる限りご家族に依頼し、本人との関係が絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や床屋で散髪してもらったり、地域の敬老会に参加したりしている。馴染みの店やレストランに家族や職員が付添い出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や状態を考慮し、家事やレクリエーションを一緒に行い助け合う様子が見られる。リビングの席やテーブルのセッティングは、入居者の関係性に注意しながら職員がどこに座るか検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、状況を尋ねたり、相談にのったり状況に応じて必要なサービスを紹介したりしている。退居先に面会に行ったりして、ホームでの様子を職員に伝え、今までの暮らしが継続できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当がご本人意向を聞きとり、できる限り希望に添うようにしている又、ケアプラン作成にも反映している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報の聞き取りから生活歴や今まで暮らしを確認し、本人や家族からも話を聞くようにしている。入居後も、面会時や行事時などで、会話の中で家族と情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を行うと共に、できる事やわかる事に着目し、どのような支援を行えば出来るか、話し合い検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合った意見を活用しながら、本人、家族の意向をふまえた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間を通して、SOAPで記録を行っている。毎日の様子や入居者の言葉、職員の対応など細やかに記録している。特に全職員で共有すべき出来事は、申し送り記録を確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけ、本人や家族のニーズには応えられるようにしている。受診の対応や個人的な外出への付添い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの、美容室やスーパーに出かけたり、入居者の仲のいい親戚や知人を把握し交流が図れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を確認し、以前のかかりつけ医を希望される場合は継続している。できる限り家族対応にて付き添ってもらい、必要に応じて職員が同行している。その時の症状に応じて専門医の受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった時だけでなく、普段からホーム内の看護職と連携し相談、対応ができるようにしている。異常あれば家族に連絡、相談しかかりつけ医や必要な病院への受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの様子を情報提供している。入院中は職員が面会に行ったり、家族や病院の看護師や相談員と連絡を取り、情報交換や今後について相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に「利用者の重度化及び看とり介護に関する指針」を説明している。また、身寄りがない方については、後見人やかかりつけ医と話し合い、事前指定書を作成した。今後、重度化や終末期になった場合は本人、家族と話し合い連携しながら、支援していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修会で毎年1回、心肺蘇生法とAEDについて学んでいる。急変時はマニュアルに添って、対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の事業所と連携し、消防署立会いのもと昼・夜間想定避難訓練を実施している。法人内の備蓄他、ホーム内にも備蓄している。今後地域との連携も図りながら取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーが保てるように、居室は入居者がカギをかけられるようになっている。人生の先輩として尊重し、丁寧な言葉かけや対応をするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、一つひとつ、例えばおやつ時お茶にするかコーヒーにするかなど、私たちが判断し提供するのではなく、入居者が自分で決定できるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握しその人らしく穏やかに生活できるのか、また入居者に聞きながら、できるだけ叶えられるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、自分が着たいものを選んでもらってる女性には、自分の化粧品でお化粧をしているまた、外出や行事があるときは、おしゃれ着を着てもらい、スカーフやアクセサリ、帽子などを身につけて出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備、盛りつけ、配膳や下膳などできる事をしてもらっている。男性職員が、調理を行っていると、エプロンを付けて手伝ってくれる利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日把握してる。本人の希望や、状態に応じて食形を変更したり、好みの飲み物に変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、口腔ケア後は口腔内の観察を行い、夜間は義歯を預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の、排泄パターンをアセスメントしその人にあった、パットを検討している。変化あった時は、モニタリングを行い再度検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を味噌汁に入れたり、牛乳やヨーグルトを勧めたりして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は温泉を使用し、入りたいときには入れるように、希望にそって入浴ができるようにしている。また、一人ひとりのADLに合わせ、リフト浴や檜浴なのかを使い分けるようにしている。ウッドデッキには、足湯があり楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ、畳の間など、思い思いの好きな場所で休んだり、昼寝をしたりゆっくりと、すごしてもらっている。夜間は衣類、寝具の調整、室温湿度の調整を行い、気持ちよく眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎に、ファイリングを行い職員が見られるようにしている。排便の状態が申し送りされ、状態に合わせて調整がされている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カレンダーの日付け替え、台拭き、調理の手伝い、洗濯干し、たたみ、できることを無理なく行っている。また、散歩、買い物など楽しみを持っていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日にその人が行きたい場所や、昔、なじみだった居酒屋などに出かけている。また、近隣のショッピングモールでの買い物にも、出かけている。月に1回はユニット毎に外出行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームで預かり、買い物時自由に使えるようにしている。金銭を手元に持っていたほうが、落ち着かれる方には、家族理解のもと、少額を本人が持たれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が、あれば電話を取り次いで話していたり、手紙を郵送したりしている。本人の希望があり、携帯電話を持ち込み家族と連絡を取られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地中熱システムを導入し、快適な室温・湿度が保てるようにしている。季節の花を飾ったり、壁紙に季節の飾りを、入居者と作り飾ったり、季節を感じられる環境作りを行っている。テレビはみたい方がいる時は、つけているが、誰も見ていない時は消し、不快な刺激とならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	みんなで集うダイニングテーブルの他に、窓際のスペース、ソファ、畳などがあり、好きな場所で、自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた、タンスや仏壇などを持って来られたり、家族の写真や自宅で育てた花を飾ったり、一人ひとりが落ち着いて、過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで生活動線には、手すりを設置している。畳で洗濯物をたたんだり、椅子に座って調理の手伝いができるように低めの配膳台を備え付けている。		